



41 ジャマイカ モンテゴベイ 上水道事業

上水道施設整備により
住民の生活環境改善に貢献

承諾額／実行額 47億2,000万円／43億円
 借款契約調印 1988年11月
 借款契約条件 金利3.75%(コンサルティングサービス部分は3.25%)、
 返済30年(うち据置10年)、部分アンタイド
 貸付完了 1997年1月
 実施機関 国家水利委員会 URL: <http://www.nwcjamaica.com>



本事業の目的

ジャマイカ最大の観光地であるモンテゴベイ地区に上水道施設(浄水、取水、送水施設等)を整備することにより、給水能力の増強を図り、住民の生活環境改善および地域経済の発展に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) a

本事業実施により、浄水供給量は、当初計画において事業完成後6年目に10.0imgd^{*}(約4万6,000トン/日)を予定していたのに対し、2004年実績は平均9.3imgd(約4万2,200トン/日)であることが確認されており、概ね計画通りであった。給水人口については1992年から2001年にかけて88,900人から121,500人と37%増加しており、水道普及率も56.7%から69.4%と堅調な伸びを示している。主な無収水率については、2004年実績で全国平均(66.2%)を上回る74.7%であることがわかった。その要因としては、モンテゴベイ中心部の不法居住者による盗水、メーター機器の未設置、料金の未払い等が挙げられる。受益者調査では、回答者である住民の77%が事業効果があったと回答し、水圧の安定化等による利便性が向上したこと、水汲み労働が軽減したことが確認されている。また、事業対象地域における観光収入が増加基調にあり、本事業により安定的な水供給の実現が観光産業を下支えし、地域経済に貢献していると判断される。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

^{*}imgd: 1.0imgd=4,546トン/日、imperial million gallon per dayの略



本事業により整備された取水施設(左)と沈殿池(下)



本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) a

本事業の実施は、審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。

事後評価時では、観光客が増加しているモンテゴベイ地区において、継続して安定的な水供給を図ることが重要な課題として掲げられている。

事業実施の経済性(効率性) b

本事業は、事業費については計画を下回ったが(計画比88%程度)、期間が計画を大幅に上回ったため(計画比371%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因としては、配水網拡充にかかる設計変更、建設工事の遅延等が挙げられる。

今後の展望(持続性) b

運営・維持管理を担当する実施機関の財務状況は直近2年間赤字計上しており財務面での問題が指摘されているものの、故障した機器(ポンプ等)の交換やスペアパーツの供給も適時に行われており、取水・浄水施設および配水網にかかる維持管理体制は良好であり、本事業の持続性は概ね問題ない。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高い。提言としては、実施機関によって策定される経営改善プログラムのなかで、高どまりしている無収水率を引き下げるための対策を講じることが挙げられる。

開発途上国専門家の意見

効率的かつ安定した水供給システムが整備されることにより、事業対象地域の住民は、本事業が生活水準向上、観光産業の下支えに貢献したと認識している。

専門家の氏名: Mr. Bevis Byfield (学者)
 現在、西インディー大学講師、消費者組合(NGO)副会長として各種社会調査に携わる。専門は心理学と教育。